

熊本地域医療センターだより

院長 杉田裕樹

令和4年(2022年)1月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

〒860-0811 熊本市中央区本荘5丁目16番10号

2022 2 月号 通算201号

熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。
紹介してよかった。
働いてよかった。
そんな病院をめざします。

contents

「友達の輪～Relayトーク 第15弾」……………	P 1
胆道癌診療の進歩……………	P 2
心カテ/血管造影装置更新のお知らせ……………	P 2
DLCOが測定可能となりました!……………	P 3
新しい人工呼吸器と ネーザルハイフローを導入しました……………	P 3
年末年始の外来業務を終えて……………	P 4

「友達の輪～Relayトーク 第15弾」

健軍桜木眼科 いわお けいいちろう
岩尾 圭一郎



田原副院長

著者

はじめまして。
健軍桜木眼科の院長をしております岩尾圭一郎と申します。当院は熊本市の東区のもっとも東の端の益城町と接するあたりにあり、前身の秋津緒方眼科から移転改築しまして5年目になる眼科クリニックです。ご紹介いただいた庄野

信先生とは、お父上の庄野元先生と私の義父の緒方弘義先生が大学の同級生であったこともあり、医師会東2部会でも大変懇意にさせていただいております。

熊本地域医療センターの診療科には眼科はございませんので、直接患者さんを治療のためにご紹介することなどはないのですが、特に手術前などに患者さんの全身状態についてしばしばご相談させていただく機会があります。「人生100年時代」という概念が提唱されて、日本でも広くその考え方が浸透しています。なんでも、先進国では2007年生まれの2人に1人が103歳まで生きる時代が到来すると予測されているようで、100年を生きることを前提とした人生設計が求められる時代になりました。そのような時代にあって、“見えること”の重要性は言うまでもありません。高齢者でもっとも見え方に影響を

与えている可能性が高いのは白内障ですが、近年の手術機器・技術の進歩で、これまで治療をあきらめられていたり、念のため入院下での手術を選択されていたりしていたご高齢の方であっても、条件が良いなら日帰り白内障手術を行えるようになりました。その際に、患者さんのお身体の状態がとても気になるのですが、地域医療センターの先生方は、私たちの問い合わせに対して、本当に真摯に対応してくださいます。先日も、眼科手術を検討していた方でもまた巨大な内腸骨動脈瘤が見つかることができました。いつも担当医として全身をみていらっしゃる先生からのお墨付きがあれば、我々も安心して手術ができます。昨今の新型コロナの世界的大流行の中にあっては、以前のように懇親会などで先生方と直接お会いする機会もないのですが、患者さんの情報のやり取りを通じて、杉田裕樹院長をはじめとするドクター陣の人柄や地域医療に向き合う姿勢が大変よく伝わってまいります。引き続き、地域医療に眼科治療の側面から貢献していきたいと思っておりますので、今後とも協力体制をよろしく願いいたします。

最後に次回のリレートークですが、同じ地区でもっともお世話になっている高木功先生に依頼させていただきました。先生が東2部会世話人の際に、副世話人を担当しまして、開院したてで右も左もわからなかった私に近隣の先生方をご紹介いただいたり、東2部バス旅行などを企画したりと楽しい時間を一緒に過ごさせていただいております。

胆道癌診療の進歩

～GCSとPemigatinibが切り開く新しい時代の幕開け～

外科医長 おかべ 岡部 ひろひさ 弘尚



胆道癌において手術方法における劇的な進歩は残念ながらこの20年間ほぼないといえると思いますが、手術が受けられない症例もしくは手術後の再発をきたした症例にとっては着実に進歩が見られ、今後10年では全体としての長期成績が間違いなく改善するものと思われ

ます。手術や周術期管理の進歩ももちろんあると思いますが、今回は抗癌剤、および分子標的治療薬の目覚ましい進歩をご紹介します。その中心となるのがGCS療法とPemigatinibです。まずGCS療法について。2010年のNew England Journal of Medicineに紹介されたABC02試験で切除不能胆道癌に対してGC（ジェムザール+シスプラチン）療法がジェムザール単独と比較して奏効率（完全寛解もしくは部分寛解）が11% vs 8%と上回り（それでも10%強程度ですが）、それから10年近く抗癌剤の進歩は見られませんでした。自分は大学院の研究が肝内胆管癌で、なかなか新しい治療開発がすすまない世界的な情勢を残念に感じながらその頃研究をおこなっていましたが、膵癌にはアブラキサンやFOLFIRINOXといった有効な治療（奏効率が20～30%）が開発され、非常にうらやましい限りでした。留学から帰って熊本大学に在籍した2016年に、GCS（GC + TS1）療法のPhase III臨床試験（MITSUBA試験）のまっただ中で参加していましたが、その目を見張る効果に当時非常に驚きました。切除不能の症例が切除可能となり、いわゆるConversion surgery例が熊本大学だけでも数例見られました。2018年のESMOで中間解析結果としてその奏効率が発表され、GC療法15%に対してGCS療法はなんと40%とのことでした。肝胆膵領

域でこのような効果が見られる抗癌剤は他にありませんので、胆道癌における大きな進歩といえます。当然最新のガイドラインにも掲載されており、実臨床で用いられております。次にPemigatinibについて。胆道癌はもともと固形癌の中ではMinorityであるため、臨床試験が行にくいバックグラウンドが存在します。待ちに待った新規分子標的薬が報告されたのは2020年のLancet Oncology（Fight-302試験：Phase II試験）でした。FGFR2の遺伝子異常を有する症例のみを対象として、肝内胆管癌が9割、肝外胆管癌が1割といった内訳で（Total 142例）、これに対してFGFR inhibitorであるPemigatinibで治療を行ったところ、奏効率が35%という驚異的な結果でした。本邦では6月から保険適応となったばかりです。この遺伝子変異を有するかどうかの検査はパネル遺伝子検査しか保険に通っておらず、当院では大学のゲノムセンターへお願いして調べていただくという流れになります。準備から結果判明まで3か月程度かかります。FGFR2遺伝子異常の頻度については、これまでのPreclinicalな研究から最近の実臨床上のパネル検査結果も含めて世界的な論文報告を調べつくすと肝内胆管癌では10%程度、肝外胆管癌で1～5%程度のようなようです。当院でもすでに5例提出し、1例その変異を認めました。今後どのような経過をたどるのかは非常に期待したいところです。

以上つつい長くなってしまいましたが、胆道癌の切除不能例や術後再発例に対してGCS療法やPemigatinibといった有効な治療を積極的に行い、一定期間腫瘍を縮小させた後の手術（いわゆるConversion surgery）の有効性もじっくり検証しながら、外科的な立場で長期的な治療成績を改善できる新しいエビデンスをつくっていかねばならないと思います。

心カテ / 血管造影装置更新のお知らせ

放射線技師長 ふくしま 福島 としかず 敏和

平素より先生方には大変お世話になっております。さて、このたび心カテ装置及び血管造影装置（共に18年間使用）を最新型血管撮影装置（兼用機）へ更新することになりました。

つきましては、下記の期間心臓カテーテル検査を施行する事が出来ません。

会員の先生方には大変ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。新しい装置に更新され、これまでよりも、さらに少ない線量で高画質な画像情報を得ることが可能になります。ご期待ください。

記

工事期間（予定）：2月4日～3月6日（約1か月間）

※尚、血管造影（腹部）に関しては、工事期間中も通常通り検査できますことを申し添えます。

DLCOが測定可能となりました！

呼吸器内科医長 ^{つむら}津村 ^{しんすけ}真介



平素より多くの患者様をご紹介いただき誠にありがとうございます。

当院では、2021年11月の電子カルテメーカー変更に合わせて、肺機能検査システムも更新し、新しい検査機器としてCHESTAC-8900（チェスト株式会社）を導入しました。

これに伴い、機能的残気量（FRC）、肺拡散能（DLCO）、最大努力換気量（MVV）が新たに測定可能となりました。

DLCOは空気に少量の一酸化炭素COを混合し吸入していただき、吸入されたCOと呼出されてくるCOとの差を測定することで肺の機能である拡散能を評価する検査です。間質性肺疾患の病勢評価に有用で、近年では間質性肺炎に肺癌を合併した際の術前の耐術能の評価などにも利用されます。pureな喘息では拡散能は低下せず、COPDでは低下するため両者の鑑別診断にも少し有益かも知れません。

導入コストの高さから実施できる施設は減少しつつありますが、高い専門性を有する呼吸器内科施設としてはまだまだ存在感の大きい検査項目です。

これらの精密肺機能検査には時間を要し、技師側の熟練度が必要な部分もあるため現時点では予約数を限らせていただいておりますが、間質性肺疾患の患者様を中心にさらに精度の高い評価が可能となり、患者様のより良い転帰やQOL獲得に役立てることができると考えます。

これからも診療内容の充実に向けて努力を続けて参ります。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



CHESTAC-8900

新しい人工呼吸器とネーザルハイフローを導入しました

臨床工学技士主任 ^{とりごえ}鳥越 ^{さや}沙綾



平素より大変お世話になります。この度、当院に新しい呼吸治療関連機器を導入しましたのでご報告いたします。

搬送ができる人工呼吸器として導入した「HAMILTON-T1」は、空気配管が不要で、酸素ボンベと一緒にストレッチャーに掛けて移動することが

できます。院内外の搬送だけでなく、災害時の備えとしても活躍することと思います。独自のモードであるASVでは性別と身長を入力すると肺の状態や自発呼吸の変化に応じて自動で換気量を調整するため、急患の対応時にも素早く対応できます。ブロワ内蔵ですが静粛性に優れ、駆動音はほとんど気になりません。

高性能な人工呼吸器として採用された「PB980」は安全性・同調性に優れ、換気設定では強制換気とサポート換気の様式を自由に組み合わせることができます。また患者の呼吸努力の変化に応じてサポートを調整する独自の自発呼吸モードPAV+を搭載しています。新生児から成人まで対応しており、病態に合わせた細やかな換気設定により人工呼吸器の

早期離脱に繋がるのが期待されます。

また「AIRVO2」の導入でハイフローセラピーが可能となりました。高流量の酸素をネーザルカニューラから投与し、装着したまま飲水や会話が可能です。空気配管が不要なため酸素配管のみの一般病棟でも使用でき、装着したまま個室のトイレに行けるように耐圧ホースを長めにしています。NPPVに慣れない患者様に使用した際に「これはいいね」の声をいただきました。患者様の負担の軽減とQOLの維持に役立つことができれば嬉しい限りです。

新しい医療機器の導入により治療の選択肢が広がることで、患者様により良い医療を提供できると存じます。臨床工学技士として医療機器を介して患者様のお役に立てるよう喜んで精進してまいります。今後ともご指導いただければ幸いです。



HAMILTON-T1 PB980 AIRVO2

年末年始の外来業務を終えて

外来・検査看護師主任 **すぎもと 杉本** **りえ 理恵**

新年を迎え、令和3年度の外来年末年始の業務報告をさせていただきます。

新型コロナウイルス感染症第6波への警戒感が高まる中、あらゆる事態にも耐えうる体制を想定しながら、年末年始体制の準備をして参りました。昨年度から導入致しました休日夜間センターにおける予約システムを活かし、“3密回避と予約患者さんはお待たせしないこと”をモットーに体制づくりに励みました。

コロナ禍における診療は、寒さとの闘いでもあります。コロナを入れない拮げないためには、入口でのトリアージによる緊急度判定に加え、正確な感染のリスク評価も求められます。寒さ対策としては、事務職員お手製のビニールカーテンの仕切りと複数の暖房器具を使用し業務を遂行することができました。

予約患者さんに関して、ほぼ待ち時間は生じ

ず、一般の患者さんには待ち時間が生じることもありましたが、「予約患者を優先している旨、待ち時間の間も看護師がラウンドし体調悪化を見逃さないように対応する」ことをアナウンスし、先読みしながら声をかけることで待ち時間へのクレームはなく年末年始を終えることが出来ました。出動協力の先生方と常勤医師の連携、交代制での病棟Nsの応援、コメディカルとの協働で「一つ屋根の下にいる患者をみんなで看る」を今年も皆で実現できたと感じています。

期間中の受診者数は12月31日をピークに710(前年度741名) そのうち発熱外来受診者は332名でした。今年度の成功体験やみえた課題を踏まえ、いよいよ突入する第6波への対応に危機感を持って臨みたいと思います。

ご出動して頂いた先生方、協力下さいました全ての皆様に、心より感謝申し上げます。



熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時/2022年2月28日(月) 19:00~20:00

形式/オンライン方式 (ZOOM)

(※1) 申し込みアドレス

申し込み方法/ kumamotochiiki@gmail.com (※1) までメールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。(後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。)



※COVID-19拡大に伴い、当面の間院内会場での直接参加を中止とし、オンラインのみでの聴講とさせていただきます。状況が改善次第、院内会場への参加を再開予定です。

※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

①症例報告

『当院で診断した ACTH 単独欠損症の一例(仮)』

糖尿病代謝内科 有馬 由佳 医師

②特別講義

『虫垂癌の臨床病理学的特徴』

CCO: その他

外科 黒木 秀幸 医師



熊本地域医療センター

■医師へ直接紹介される方はこちら

☎096-363-3311 (代表)

■何科に紹介するか迷っている場合はこちら

※ベテラン看護師が対応いたします!

(平日9:00~17:00) ☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)

☎096-366-1323

編集後記

Y リレートーク第15弾は健軍桜木眼科の岩尾先生に書いていただきました。当院にない診療科の先生にも存在意義を認めていただいていると改めて実感し、励みになりました。新しい機器も整備して会員の先生方の期待に添えるように頑張ってます。

K いよいよ、新型コロナも第6波が到来。受験生を抱える我が家は、親だけがピリピリイライラの毎日。食事以外は、自宅でもなるべくマスクをするように子供達に話しています。先日、私に当てつけのようにマスク姿の写メが送られてきました。なぜか、ネコもマスクしていました。

H 現在、流行している新型コロナ変異株の特徴は感染力が高く、かなり厄介とのことで、熊本でも過去最多の感染者数が更新されています。改めて自分の感染予防を見直し、より徹底した予防に努めていきます。